

令和7年度 横浜市立戸塚高等学校 学校評価報告書

取組分野	令和 7 年度		
	取組目標	自己評価	
重点取組項目	「総合的な探究の時間」の取組の推進	○自己の在り方、生き方を考えながら課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、探究の意義や価値の理解を深める。 ○課題を主体的に解決しようとする能力や態度を身に付ける。	○生徒による学校評価の結果によると85.6%の生徒からは、目標を実現できているという評価を得た。しかし、14.4%の生徒からは実現できていないという評価であった。一つの教科でありながら14.4%の生徒からそのような課題を提示されている結果を受け止め、令和7年度から取り組んでいる戸塚高校独自の総合的な探究の時間のさらなる改善に取り組んでいかなければならない。
	魅力ある学びの創出に向けた取組	○生徒の学力向上を目指して「社会につながる協働的な学習」を推進し、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業の充実を図る。 ○特別活動、部活動等において、生徒の主体的な活動を支援して自主・自律の精神を育てる。 ○中学校・高校・大学・地域との連携事業を通して、生徒の学習意欲の向上とキャリア教育の充実を図る。	○令和7年度に全ホームルーム教室にプロジェクターの設置が完了し、教職員の授業改善への取組も加速した結果、校内の研修・研究への評価も上昇した。 ○生徒の主体的な活動に対する支援も継続していることで、生徒の評価も高水準を保っている。 ○地域からの評価として、地域人材の活用に課題もみられるため、高大連携と合わせて、地域との連携事業も模索しながら、生徒の主体的な学習の支援を推進していきたい。
	多様化する生徒への支援	○授業改善を推進しながら「一人ひとりを大切に」教科指導の充実を図り、基礎学力の定着と学習習慣の確立を目指す。 ○卒業後の進路を見据えたキャリアガイダンスを充実させ、生涯にわたる職業観の育成を図る。	○生徒による学校評価1「希望する進路に進むために必要な科目や興味・関心を満たす科目が設置されているか。」について、「十分に実現」が55.8→39.3%、「Bおおむね実現」が39.0→55.1%となり、肯定的な回答の割合は変わらないが、「十分に実現」の割合が減少傾向にあることから、科目設置や選択方法について検討の余地がある。
人材育成の取組目標	○教職員のキャリアステージに応じた人材育成を図り、教職員一人ひとりの積極的な学校経営参画を推進する。 ○生徒の学習意欲を伸ばす人材育成を推進する為、教科内でのOJTや校外でのOFF-JTを積極的に進めながらすべての教科で「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かした学習指導を行い、指導力と授業力の向上を図る。	○教職員による学校評価2「教職員が互いに研鑽し、校内の研究・研修体制が整えられているか。」についての肯定的な回答が、令和6年度からさらに7.0%増加した。令和6年度の反省を生かした人材育成への取組が進んでいる。 ○総合的な探究の時間への取組の評価も上昇していることから、ICT機器の充実と合わせて、自立した学習者の姿を目指す市の教育課程研究委員会の指針と一体となったさらなる授業改善に取り組んでいきたい。 ○令和7年度、中堅教員研修参加者が自ら主体となってメンター研修を複数回実施した。こういった教職員自らの学ぶ意欲の醸成を引き続き図ってきたい。	
教育目標等の設定・実施	○学校教育目標の「自主」「協働」「連帯」、中期学校経営方針及びグランドデザイン、スクール・ミッションやスクール・ポリシー等についての理解を深め、目標の達成に向け努める。	○保護者による学校評価1「本校は教育方針や学校目標についてきちんと説明しているか。」と学校評価2「本校の教育課程は、生徒の必要性に応じたものとなっているか。」で肯定的な回答が、令和6年度よりそれぞれ6.9%、5.1%上昇している。この3年間の取組が、保護者への一定の理解につながっているため、令和8年度以降この評価を踏まえた新たな中期学校経営方針を策定し、教育目標の実現を深めていく。	
組織運営(働き方改革)教職員研修	○教職員が意欲と責任を持って校務を遂行できるチーム力を高めると共に教職員間の連携を強化する。 ○授業評価や教員間の授業公開を実施し、授業研修の活性化を図る。 ○効率的に校務を行う意識の向上を図る。	○教職員による学校評価全体について、肯定的な回答が上昇傾向にあり、教職員一体となった組織運営が醸成されている。 ○自発的な研究授業の実施なども増え、教職員の自ら学び研修研鑽する姿勢や評価も上昇している。 ○各分掌のリーダーが責任をもって学校運営に参画し、自主型の組織改編が進んでいる。必要な時には管理職とも連携を図り、教職員の負担軽減につながる、持続可能な形で組織改編を進めていきたい。	
教育課程	○学習指導要領の具体的な対応に取り組み、教育課程の更なる充実を図る。 ○研修の機会を通して、教職員の共通理解を進める。	○生徒による学校評価1の「希望する進路に進むために必要な科目や興味・関心を満たす科目が設置されている。」という項目や教職員の教育課程に関する項目は全て前年よりマイナスの結果となっている。新教育課程が一回りし、課題等が明らかとなってきており、今一度本校が目指す学校としての方向性やあり方を教職員全体で認識を共有し、共通理解を図っていかねばならない時期になってきているのではないかと考えられる。 今年度教育課程委員会では現状の課題等の洗い出しを行った。今後は学校全体で指導要領への認識を深め、教育課程の充実を図っていかねばならない。	
教科指導	○すべての教科で「主体的・対話的で深い学び」の視点を生かした学習指導を行う。 ○ICTを積極的に活用した授業を研究・実施し、学習・指導方法についての研究を進める。	○すべての教科・科目において、グループワークやペアワークなど指導内容によって、授業形態を柔軟に変化させて「主体的・対話的で深い学び」の実践に取り組んでいる。 研究授業を中心に、ICTを積極的に活用した授業実践を教科・科目で共有している。	
特別活動部活動	○特別活動や部活動等において、生徒の主体的な活動を支援すると共に自主・自律の精神を育て、社会性豊かな人間性を育てる。	○行事は生徒が主体的に企画運営をできたので目標は達成できたと言える。部活動は年々参加率が下がっているため、部活動のあり方から見直しをしていきたい。	
生徒指導教育相談(特別支援)	○基本的な生活習慣を確立させるとともに、公共心・道徳心を養い、お互いの人権を尊重できる生徒を育てる。 ○スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーと連携し、特別支援教育委員会を通じて個々の生徒に応じた教育相談活動を充実させる。	○基本的な生活習慣の確立においては各ホームルーム、年次で登下校指導を続けている。ただし地域の方による学校評価4「生徒は登下校の際のマナーが身につけている」においては前年比-4.0%であるが、地域の方による学校評価5「生徒は近隣に迷惑がかけられないような行動を心がけている」においては+4.0%と令和6年度より上昇傾向にあり、今回の結果を今後の指導に活かしていきたい。 ○生徒による学校評価2「あなたはホームルーム(学級)で良好な人間関係を築くことができている」においては96.2%の生徒が肯定的な回答であった。学習環境としても満足いく環境が保たれていると感じる。 ○規範意識等の適切な指導については、保護者による学校評価5「生活習慣や規範意識を身に付けるための適切な指導が行われている」において前年比+8.5%、教職員による学校評価12「生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて、適切な指導を行うことができている」において前年比+7.6%と、ともに令和6年度を上回っており、一定の成果は出ていると思われる。 ○心の悩みを抱える生徒が急増しており、スクールカウンセラーの利用も増えている。また外部機関とも連携する案件も増加傾向にある。	
中期学校経営方針における13の取組分野	キャリア教育進路指導	○スタディーサポート等の効果測定を計画的に実施し、その結果を分析・活用して生徒の進路希望の実現を図る。 ○卒業後の進路を見据えたキャリアガイダンスを充実させ、生涯にわたる職業観の育成に努める。	○教職員による学校評価13「生徒の希望する進路の実現に向けて、学校全体として適切に取り組んでいる」において、88.8%が肯定的に回答した。3年間のガイダンス計画や生徒の学習状況などが、各年次の指導や研修会を通して、教職員間でほぼ共有されていると考えられる。 ○生徒による学校評価6「進路に向けての明確な目標を持っている」において、70.1%が明確な目標を持っていると回答している。さらに生徒による学校評価7「進路説明会等で進路に関する情報を理解することができた」において87.1%が情報を理解していると回答していることから、各年次に応じた指導を継続的に進めている効果が出ている。大学進学のための情報提供だけでなく、職業別や分野別のガイダンスを定期的に行っている効果もある。 ○保護者による学校評価7「進路希望に応じた適切な指導が行われている」において90.3%が肯定的な回答をしている。保護者会や面談等を通じて定期的に情報を公開している効果も出ている。今後も、スタディーサポートや模擬試験のデータをもとに現状に即した情報の公開をしていきたい。
保健指導環境美化	○生徒の心身の健康の保持・増進の意識と実践力を育成する。 ○教職員と生徒が一体となり保健環境整備を一層進め、地球環境保護の意識を高める。	○環境美化に関する評価は、教職員による学校評価15「資源リサイクル等、省エネ行動に学校として適切に取り組んでいる」において前年比+11.8%、生徒による学校評価9「学校は資源リサイクルや環境美化について積極的に取り組んでいる」において前年比+0.6%、保護者による学校評価9「環境美化に努め、校内の教育環境がきちんと管理されている」において前年比+9.7%といずれも令和6年度を上回っている。今後もゴミの分別も含めて環境美化対策に取り組んでいく。 ○健康管理、保健指導の項目について、生徒による学校評価8「生徒の健康管理について適切な指導をしている」において前年比-1.0%の微減に対し、教職員による学校評価14「学校保健計画に沿って生徒の健康管理を適切に行い、また生徒の健康に対する意識を喚起している」において+3.8%、保護者による学校評価8「生徒の健康管理に関する適切な指導が行われている」において+9.7%という高評価となっている。引き続き、感染症や熱中症等、昨今の健康問題に対する情報を発信し、生徒への意識付けと行動変容に繋げる取り組みが必要だと考える。	
学校経理施設・設備情報の管理	○公金及び準公金の執行に対する意識を高め、計画的で適正な管理を行う。 ○校内施設点検及び危険箇所の点検を定期的に行い、教育環境の整備に努める。 ○個人情報及びその媒体の学校管理を徹底する。	○公金、準公金については、研修を行い引き続き適正な管理に努めた。また、PTAによる会計監査では問題となる大きな指摘はなかった。 ○校内の施設については、女子トイレの全面改修を終えた。また、消防点検で指摘のあった非常灯及び避難誘導灯の改修や、体育館及びアリーナ棟体育室の照明更新を行い、教育環境の整備に努めた。 ○個人情報の管理についても、研修を実施し取扱いについて再確認を行い、適正な管理に努めた。	
保護者・地域等との連携協力	○PTA活動の充実を図り、保護者との組織的かつ継続的な連携を一層深める。 ○学校運営協議会を通じて地域と連携した取組を充実させる。	○保護者は学校の教育活動を概ね好意的に評価している。方針や課題を保護者会や面談、通信、PTA活動で丁寧共有し、連絡ツール「すぐる」で担任に直接相談できる体制が、安心感と信頼を高めていることが理由と考えられる。 ○地域連携に関しては概ね高評価を受けている。生徒の地域行事・防犯清掃活動や学校運営協議会との交流が評価されたものと思われる。	
危機管理	○安全・安心な学校づくりを第一に、全教職員で取り組む。 ○大規模地震に対応した避難訓練等を通し、生徒の防災・減災および危機管理意識を高める指導を進める。	○安全対策、防災対策の両面において、危機管理に対する教職員の評価は令和6年度より向上している。これは、自主防災組織の編成、備蓄品保管場所の周知、防災訓練の改善などの取組みに対して一定の評価が得られた結果であると考えられる。生徒の避難経路についての認識が令和6年度よりやや低いが、アンケート実施後に行われた避難訓練を通して認知度を高めることができたと考えている。	
学校に関する情報公開	○学校ホームページや電子配信端末を適切かつ有効に活用して、正確で迅速な情報発信を進める。 ○学校説明会及び中学校訪問(進路学習会)等を積極的に実施し、学校情報の公開に努める。	○取組目標はおおむね実現できていると評価できる。中学生向けには学校ホームページなどに必要な内容を掲載し、学校説明会では設備見学なども含め実施した。また近隣の中学校を訪問した学校説明も積極的に進めている。 ○生徒・保護者・教職員向けは令和6年度市全体で導入された「すぐる」の利用を継続している。地域に向けた学校情報の公開は紙媒体で自治会に回覧している。	
いじめへの対応	○生徒一人ひとりへの理解を深めるとともに、教職員間及び保護者との情報共有に努める。 ○校内の支援体制を点検し、いじめ問題等への未然防止と早期発見に努める。	○概ね達成できていると評価できる。いじめ防止対策委員会の会議報告を全教職員と共有している。年3回のアンケートを実施し、気になる記載のあった生徒については教育相談を実施し生徒理解に努めた。 ○生徒代表との意見交換会を実施し、より良い支援体制について検討した。	